

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

パブリックサービスR&C合同会社

②事業者情報

名称： アートチャイルドケア桶川	種別： 保育所
代表者氏名： 遠藤 真美	定員(利用人数)： 60 (59) 名
所在地： 〒363-0023 埼玉県桶川市朝日1-27-3	TEL. 048-778-1216

③評価実施期間

令和7年7月1日（契約日）～ 令和8年3月31日（評価結果確定日）

④総評

◇特に評価の高い点

○子どもの個性を尊重し寄り添う保育を実践し、保護者の就労と育児の支援にも積極的に取り組むことで、保護者から高い評価を得ています

今回の利用者調査では、園の総合的な満足度は、「満足」（89.0%）と「やや満足」（11.0%）とを合わせて、回答した保護者100%が満足しているという非常に高い評価が得られています。当園では保育理念・保育目標の実現に向けて、子どもが安心して楽しくのびのび過ごせる保育園を目指して保育を展開しています。子どもの個性を尊重し主体性を大切に保育を進めていることが、連絡帳や日々の会話の中、また子どもの姿から伝わっているようです。さらに、保護者の就労と育児の両立を支援するために、おむつのサブスク（定額利用）サービスを取り入れたり、ICTツールの導入を順次進めることで、保護者の負担を軽減しています。

○「自分らしく」を大切に、子ども主体の行事を通して創意工夫を育み、一人ひとりの発想を生かした表現活動を豊かに展開しています

「自分らしく」生きていくことのできる子どもを、どう学ぶかを考えられる子どもを育てたいとの保育理念のもと、園の職員の間には日頃から保育活動の中で子どもたちの声を丁寧に受け止める風土が根付いており、園行事の取り組みにおいても子どもたち一人ひとりの希望や発想を大切にしています。例えば、使用しなくなった職員用エプロンを再利用し、子どもたちは自分の衣装を自由にデザインしながら、リボンやフリルをつけたり、バッグや剣など多彩な小物づくりを楽しみました。男児も女児も「なりたい自分」をのびのびと表現し、ファッションショーでは子どもたち全員が輝く姿を見せ、自己表現への大きな自信につながっています。

○会社のマニュアルを基に、園全体で統一した掲示や整理を行って園運営を円滑にし、子どもや保護者に分かりやすく情報を提供しています

会社のACCマニュアルには、業務マニュアルを始め、保育園に関わる業務の全てが体系的に網羅されています。特に安全面では、業務継続計画（BCP）を策定し、「エマージェンシーカード」の整備を行っています。また、地震・火災・水害・不審者の際に各保育室により行動経路が異なることから「アクションカード」を作成し、各部屋の確認しやすい場所に備えることで、職員が誰でもすぐに行動できるように取り組んでいます。職員室には安全面での様々な注意事項が見やすく掲示されており、全職員が活用できるよう標準化を図っています。社内のマニュアルを有効に活用し、園全体で統一した掲示方法や各種文書ファイルの整理・保管により、職員間の情報共有を促進し園運営を円滑にするとともに、子どもや保護者に最新の情報を分かりやすく提供して保育を進めています。

◇特にコメントを要する点

○中長期計画を毎年度の事業計画に展開して推進し、評価・検証結果を次期の計画に反映させるPDCAの仕組みを構築することが望まれます

会社の3か年経営方針（2024年10月～2027年9月）を策定し、安心・安全を大前提とした保育と社会貢献を基本戦略として明示しています。この経営方針のもと、園の3か年の中長期計画を策定し、現状と課題を明らかにするとともに、7つの重点事項（取り組むべき目標と計画）を設定しています。これらは着実に実行に移していますが、3年間の中でいつ、何を、どこまで実施しようとしているのか、数値目標や具体的な成果等、目指す状態をあらかじめ明確に設定することが期待されます。その上で、重点事項の取り組み等を毎年度の事業計画に位置付けたり、社内の「一年間の『NO.1』宣言」の取り組みにも関連付けて推進し、事業報告で達成状況の評価・検証を行って、成果や課題を次年度の事業計画に反映させていくPDCAの仕組みを構築することが望まれます。

○小学校教育への接続をより円滑に進めていくために、近隣の小学校との連携・協働体制の充実に向け取り組むことが期待されます

教育・保育の「全体的な計画」に小学校との連携に関する事項を位置付け、時間を意識した生活づくりに取り組んでいます。また、小学校入学前に小学校との連絡協議会に出席し、子どもや家庭の様子を共有しています。一方で、学校訪問や説明会など、子どもや保護者が小学校以降の姿を具体的にイメージできる機会については、今後深めていく段階であり、現在は散歩時に校舎を見る程度に留まっています。また、保育施設と小学校が子どもに関する情報を共有し、就学後の支援につなげるために「保育所児童保育要録」を作成し、入学先の小学校へ提出していますが、さらに、園の職員と小学校教員との意見交換や研修を通じて子どもの姿について共通理解を深める必要があると思われます。市にも協力を求めて、連携のための場を計画的に整えていくことが期待されます。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

「安全・安心」を大前提とし、保育理念・保育目標に沿った保育を行えるよう日々取り組んで参りました。今回の受審を受け、保護者の皆さまにも個性を尊重し、お子様ひとりひとりに丁寧に関わりを持って取り組んできた点を評価頂けたことで、職員の自信や励みになりました。また、運営についても職員の働きやすさや緊急時に備えた対応方法などを工夫して参りましたので、その点を評価いただけたことはとても嬉しく思います。客観的に保育や運営について見直すことができ、当園の強みを知ることができました。これに慢心せず、今後もお子さまひとりひとりに丁寧に向き合い保護者の皆さまが安心して預けられる施設であるよう努めてまいります。

今後の課題としては、会社の経営理念、保育理念や目標を事業計画に盛り込みPDCAサイクルの構築を行い具体的に評価・反省できるような仕組みを作っていくことで、よりよい保育運営を行えるようにしていきたいと思っております。また、当園の強みである地域交流を活かし、小学校との連携や地域との防災対策等を行っていきたくと考えています。

ご指導くださいました関係者の皆様、お忙しいなかアンケートにご協力くださいました保護者の皆さまに感謝申し上げます。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり